いのちの能「慈愛～魂のゆくえ Tradition for a better future」

開催日 ｜9/4（月） 時 間｜14:00 ー 15:30 開催場所｜ 霊宝館

コロナ禍において能が現代社会のために何かできるのか、魂の救済としての能の果たすべき役割について再考察し、醍醐寺で伝えられてきた修験道ならではの力強い声明と共に上演します。
能との所縁の深い醍醐寺から、第１回日本国際芸術祭の開幕を祈念して、新しい能楽を未来に向けて発信します。

入場料 ｜ 7,000円
※当日の醍醐寺拝観料を含む

公演内容：【新作能「慈愛～魂のゆくえ」(声明と能楽のコラボレーション公演) 約 60 分】【対談 約 30 分】

出演者 (能楽)：山本章弘、山本麗晃、河村浩太郎、安田登、茂山千之丞、杉浦豊彦、吉井基晴、浦田保親、左鴻泰弘、渡部論、古田知英 ほか

公益財団法人
山本能楽堂

公益財団法人 山本能楽堂

昭和 2 年創立、昭和 25 年に再建した、大阪のオフィス街に佇む杜の様な能楽堂。能を「現代に生きる魅力的な芸能」として、その素晴らしさを広く伝えるために、新しい視点に立ったオリジナルな企画でプロデュース公演を開催。教育文化事業に取り組む。所在地：〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町１丁目３ー６

※現時点での予定ですので変更する場合がございます。

JIAF
日本国際芸術祭
Japan Annual-International Art Festival

第1回日本国際芸術祭参加

いのちの能
慈愛
～魂のゆくえ

Tradition for a better future

コロナ禍において、能が現代社会のために何かできるのか、魂の救済としての能の果たすべき役割について再考察し、
醍醐寺で伝えられてきた修験道ならではの力強い声明と共に上演します。
能との所縁の深い醍醐寺から、第1回日本国際芸術祭の開幕を祈念して、「魂の救済」のための新しい能楽を未来に向けて発信します。

2023年
9/4（月）

14:00～15:30（開場13:30）

会場：世界文化遺産 京都 醍醐寺 霊宝館

京都府京都市伏見区醍醐東大路町22

入場料：7,000円（拝観料を含む）

96th 山本能楽堂

いのちの能 慈愛 ～魂のゆくえ
Tradition for a better future

〈プログラム〉

◆ 声明　真言宗醍醐派総本山醍醐寺

◆ 新作能「慈愛～魂のゆくえ」

諏訪弥太郎：山本　章弘
京都に住む母：河村浩太郎
その子供：山本　麗晃
難波の寺の僧：安田　登
門前の者：茂山千之丞

笛：左鴻　泰弘
小鼓：古田　知英
大鼓：渡部　論

後見：吉井　基晴
深野　貴彦
山田　薫

地謡：杉浦　豊彦
浦田　保親
越賀　隆之
樹下　千慧

◆ 対談「いのちについて」（仮題）

あらすじ

弥太郎は昔、京都の烏丸に住んでいましたが、商いを変えて、今は難波に住んでいます。ちょうど十三年前に病気で亡くなった我が子の十三回忌法要を行うことにしました。

また、都では、母と子が十三参りに行きますが、そこで子が突然に「13歳になったので、申し上げます。私は、昔、都の烏丸に住んでおり、父の名は、諏訪弥太郎と言いました。」と、不思議な事を言いだし、「父に会うため烏丸に連れていってほしい」と頼みます。母は我が子にその魂がうつったのだと思い、親子で京都烏丸へと向うことにしました。しかし、弥太郎は、京都にはおらず、二人は弥太郎の後を追って、難波へと向かいます。

難波の寺では弥太郎が亡くした子の十三回忌法要を執り行っていました。

法要が始まると、弥太郎は急に懐かしい香りを感じ、自然に涙があふれ出してきました。その瞬間、母と子が、諏訪弥太郎を尋ねてお寺に入ってきました。そして、子は、この人こそがその弥太郎であるとわかると、懐かしい気持ちで一杯になり、弥太郎もその子が亡くなった自分の子のように思え、二人はただただお互いを抱きよせて泣くばかりでした。

僧が、その様子を見て、これは仏様のご慈愛によってよって廻り逢えた大変おめでたいことであるから、ひとさし舞を舞うようにすすめました。そこで、弥太郎は子に「この数珠を私と思ってください」と数珠を手渡し、二人は、この瞬間だけは親子であると、互いに目を見かわして、慈愛の心を共に感じながら舞を舞いました。そして、舞い終わると　二人はさようならと別れを告げて、お互い離れて別々に生きていくことにします。

魂は、ここからすぐそばにあるという浄土と、苦しみの俗世とを、わたり行き、滅びることはないのでした。

山本 章弘（やまもと あきひろ）

観世流能楽師。公益社団法人能楽協会理事、公益財団法人山本能楽堂代表理事。能を「現代に生きる魅力的な芸能」として捉えなおし、国内外で能の魅力を伝える。次代を担う子ども達への教育にも取り組みこれまで約8万人の子ども達に能の魅力を伝えてきた。大阪文化賞、外務大臣表彰、国際交流基金地球市民賞など多数受賞。

安田 登（やすだ のぼる）

能楽師、ワキ方、下掛宝生流。公認ロルファー（米国のボディワーク、ロルフィングの専門家）。著作に『異界を旅する能』『身体能力を高める「和の所作」』『身体感覚で「芭蕉」を読みなおす。』『体と心がラクになる「和」のウォーキング』など多数ある。

茂山 千之丞（しげやま せんのじょう）

茂山あきらの長男で、父および祖父二世千之丞に師事。NOHO（能方）劇団『魔法使いの弟子』（1986年）で初舞台を踏んで以来、古典に留まらない領域横断的な活動を続けている。2018年12月に三世茂山千之丞を襲名。2019年第37回京都府文化賞奨励賞を受賞。

世界文化遺産　醍醐寺

醍醐寺は874年に開創され、上醍醐と下醍醐の約200万坪の広大な敷地に、京都府内で最古の木造建築の五重塔など国宝75,537点（日本一の国宝点数）をはじめ仏像、文書、絵画など古代、中世以来の貴重な寺宝は約15万点にも及びます。本坊的な存在の三宝院は、国宝に指定されている表書院をはじめ建物の大半が国の重要文化財に指定されており、三宝院庭園は、慶長3年（1598）に豊臣秀吉公が「醍醐の花見」に際して自ら基本設計をした庭であり、今も桃山時代の華やかな雰囲気を伝えています。「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されています。

日本国際芸術祭

日本国際芸術祭とは、2025年日本国際博覧会を契機に開催する新しい国際的な芸術祭です。万博までも万博後も、千年の都京都、文化庁がある文化首都京都で開催致します。アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創を目指し、2023年に第1回を開催、2024年、2025年（京都と万博会場）、2026年、2027年と毎年継続していく予定です。2023年の開催期間は9/1～10/15、メイン会場を世界文化遺産京都醍醐寺に据え、京都市内・京都府内の画廊、工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣等を繋ぎます。京都を中心に展開し、そこに大阪や全国が繋がっていく形を創り上げます。本芸術祭は（一社）夢洲新産業・都市創造機構が本部になり継続させてまいります。

第1回日本国際芸術祭専用ページ：
https://yumeshimakikou.org/jiaf2023/

◆入場料 7,000円（拝観料を含みます）

◆チケット取扱

e+ イープラス
https://eplus.jp/

山本能楽堂

電話予約 06-6943-9454
（平日10時から17時　土・日曜・祝日休み）

インターネット予約
http://noh-theater.com

会 場

世界文化遺産
京都 醍醐寺 霊宝館

京都府京都市伏見区醍醐東大路町22

〈アクセス〉
電車：醍醐寺へは京都市営地下鉄東西線が便利です。
JR琵琶湖線または湖西線［山科駅］、JR奈良線［六地蔵駅］で京都市営地下鉄東西線に乗り換え、［醍醐駅］下車、徒歩10分。

バス：京都駅八条口（ホテル京阪前、301系統）より、乗車、［醍醐寺］バス停下車。所要約30分。
JR山科駅（1番乗り場、22、22A系統）より乗車、［醍醐寺前］バス停下車。所要約20分。
京阪六地蔵駅（2番乗り場、22、22A系統）より乗車、［醍醐寺前］バス停下車。所要約10分。

※詳しくは、総本山醍醐寺ホームページ
（https://www.daigoji.or.jp/）をご確認ください。

第1回日本国際芸術祭　主催：一般社団法人　夢洲新産業・都市創造機構
特別協力：世界文化遺産 京都 醍醐寺

いのちの能 慈愛～魂のゆくえ
Tradition for a better future　主催：公益財団法人　山本能楽堂